各種スポーツ大会成績

市中総体バレーボール女子　綾織中対青笹中

市中総体野球　宮守中対遠野中

●第58回岩手県高等学校総合体育大会（5月25日―6月5日、北上総合運動公園ほか）

◆陸上競技

▽男子ハンマー投げ＝小原祐一（遠野情報3）36メートル45＝第8位

▽男子やり投げ＝高橋一徳（遠野3）54メートル54＝第1位

▽男子やり投げ＝菊池彰也（遠野3）53メートル26＝第2位

▽男子八種競技＝水野仁惣（遠野3）3994点＝第3位

▽女子百メートル障害＝新田直子（遠野2）17秒56＝第8位

▽女子三千メートル競歩＝似田貝未貴（遠野2）18分9秒54＝第8位

▽女子走り幅跳び＝水野恵理（遠野3）5メートル14＝第2位

◆空手道競技

▽男子個人組手の部＝黒澤泰（遠野3）＝ベスト8

▽女子個人組手の部＝菊池美智代（遠野3）＝第5位

▽女子団体組手の部第3位＝遠野高校

◆男子サッカー競技

▽第4位＝遠野高校

◆女子サッカー競技

▽準優勝＝遠野高校情報ビジネス校

◆女子バレーボール競技

▽ベスト8＝遠野高校

●第34回遠野市サッカーカーニバル（5月27・28日開催分、運動公園サッカー場ほか）

◆中学生の部

▽優勝＝遠野中

●第22回全国小学生陸上競技交流大会岩手県大会遠野・釜石地区予選会（6月3日、運動公園陸上競技場）　一位のみ掲載

◆男子の部

▽四百メートルリレー＝遠野北クラブ（菊池和樹3、遠野北5、菊池征佑＝同6、菅崎光＝同6、白岩信太＝同6）58秒26

◆女子の部

▽5年百メートル＝濱田芽生子（遠野北）15秒71

▽走り高跳び＝澤村光（遠野5）1メートル24

●第44回岩手県中学校通信陸上競技大会遠野・釜石地方大会（6月3日、運動公園陸上競技場）　一位のみ掲載

◆男子の部

▽1年百メートル＝瀬川貴文（土淵）13秒35

▽3年百メートル＝阿部研友（綾織）12秒81

▽共通四百メートル＝青笹大（遠野3）56秒47

▽1年千五百メートル＝菊池昭弘（宮守）5分21秒05

▽共通走り高跳び＝菊池光亮（宮守3）1メートル65

▽共通四百メートルリレー＝宮守中（阿部優樹3、河野圭祐3、菊池光亮3、河野東2）49秒44

◆女子の部

▽1年百メートル＝菊池奈那子（綾織）14秒70

▽3年百メートル＝松田真美（遠野）13秒94

▽1年千五百メートル＝村上朱梨（附馬牛）5分44秒99

▽共通八百メートル＝多田幸恵（宮守3）2分39秒85

▽共通百メートル障害＝菊池優唯（遠野3）18秒60

▽共通砲丸投げ＝佐々木幸江（附馬牛3）9メートル90

▽四種競技＝鈴木那未（綾織3）1739点

●第28回遠野市スポーツ少年団本部長旗争奪野球大会兼第28回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会遠野市大会（6月10・11日、運動公園野球場ほか）

▽優勝＝上郷野球スポーツ少年団

●平成18年度遠野市中学校総合体育大会（6月17・18日、遠野中学校新体育館ほか）

◆団体の部　優勝校のみ掲載

▽野球＝宮守中

▽剣道男子＝遠野中

▽剣道女子＝青笹中

▽バスケットボール男子＝遠野中

▽バスケットボール女子＝綾織中

▽バレーボール男子＝宮守中

▽バレーボール女子＝綾織中

▽ソフトボール＝遠野中

▽卓球男子＝宮守中

▽ソフトテニス男子＝遠野中

▽ソフトテニス女子＝宮守中

◆個人の部　一位のみ掲載

▽剣道男子＝太田亮輝（遠野3）

▽剣道女子＝熊谷仁美（遠野1）

▽卓球男子＝朝倉捷（宮守2）

▽卓球女子＝千葉彩佳（附馬牛3）

▽ソフトテニス男子＝北田歩（遠野2）、佐々木偉（同2）組

▽ソフトテニス女子＝高室京（遠野3）、菊池美咲（同3）組

●第45回岩手県下少年剣道大会兼第41回全日本少年剣道錬成大会岩手県予選（6月18日、県営武道館）

▽小学生団体の部ベスト8＝遠野剣道スポーツ少年団（全国大会出場）

市中総体卓球男子団体　宮守中対遠野中

ASTが行くっ！

※ＡＳＴ（アスト）は遠野農業活性化本部「あぐりステーション遠野」の通称で、農業活性化のために県・ＪＡ・市の３者が合同機関として設立しました。

元気いっぱいの遠野農業を目指して

― 農家自らの「こうしたい」を支援中 ―

アストの平成十八年度事業の一つ「小規模パッケージセンター試行事業」がスタートしました。今回は、その狙いや概要をリポートします。

■事業の目的は？

市の主力作物の一つであるホウレンソウの出荷では、土づくりから出荷までの全作業のうち、出荷規格にそろえて袋詰めする「調整」作業に時間がかかります。

アストでは「この作業を一括して代行することにより、農家が生産面に集中し栽培面積を拡大できないか」と考え、ＪＡ野菜集出荷場内に小規模パッケージセンターを仮設して、試行運用を開始しました。

■センターの作業は？

センターで行う作業は、ホウレンソウの規格調整作業と袋詰め作業です。市場ニーズの高い特殊フィルムを使った密封型パッケージにも対応しています。

■産地としての利点は？

生産者は、ホウレンソウを収穫した状態でセンターに搬入するだけです。センターが面倒な「調整」作業を代行することで、作業は大きく省力化され、新規参入や高齢者などの参入が容易になります。

栽培推進施策と連携し、栽培規模拡大やハウスの回転数向上につなげ、高品質でより多くの需要に対応した商品として、販売額の増加が期待されます。

■試行から本格運用へ

十八年度は、センターの処理能力向上を図りながら、適正料金を算定します。現在は、一袋当たり十五円から二十円程度の料金を見込んでいます。

十九年度には、生産者が利用しやすいパッケージセンターを本格運用できるよう取り組んでいきます。

問い合わせ先＝アスト（☎63-1055）

設備は必要最低限とし、コストを抑えた運用を目指しています

シリーズ 新風 ②

エゴマパワーで健康と商品作りの輪！

エゴマは以前から「じゅうね」などと呼ばれ、全国各地で栽培されてきました。近年、エゴマに含まれるアルファリノレン酸が生活習慣病やアレルギーなどに有効であることが知られ、道の駅などで種子や加工品が人気を呼ぶようになりました。

ＪＡとおのよつば女性部エゴマ班（会員33人）は、遊休農地でエゴマ栽培に取り組み、エゴマを使ったみそおにぎりやサラダなどの料理講習会を開催し、普及活動にも力を注いできましたが、搾油作業は市外の業者に委託してきました。

昨年「商品化まで、市内での一貫生産に挑戦したい」との機運が高まり、アストの支援を受けミニ搾油場を整備。自分たちで搾ったエゴマ油を商品化し、市内の産直などで販売中です。消費者の健康志向が追い風となり、評判は上々。今後、地場産エゴマの輪が広がりそうです。

ご存じですか？新しい農薬残留規制

野菜や農産加工品などの全食品を対象とした新しい農薬残留規制が十八年五月二十九日から始まりました。

今までは、農薬ごとに残留基準が設定されていたため、残留基準が設定されていない農薬はどれだけ残留していても規制できず、輸入農産物などで大きな問題となっていました。

そこで食品衛生法が改正され、すべての農薬に残留基準が設定されました。その基準を超えた食品は流通禁止になります。

この制度はポジティブリスト制といわれ、消費者には、安全性に問題のある食品を手にする機会が減るというメリットがあります。生産者には、今まで以上に農薬の適正使用が求められます。残留基準は作物別ですから、最も怖いのは、散布対象以外の作物に農薬が飛散することです。風向きに注意し、飛散しにくいノズルを使用するなど徹底した飛散防止対策が必要です。